

## 獅子門翁忌追善俳諧

伝統の連句を受け継ぐ

松尾芭蕉の命日にちなんだ翁忌が12月7日、下本町の杉山邸で獅子門正式俳諧の会員32人が出席して行われました。

この日、発句として芭蕉の句が詠み上げられ、次の句を大野鶴士41世道統宗匠（笠松町在住）が披露し、それを受け会員たちが、五七五、七七の句が交互に続き、36句が詠まれました。

この連句会に初めて出席した会員たちは、俳句の魅力や面白みを実感しました。

俳諧結社「獅子門」は、各務支考の別号の獅子老人にちなんだ呼称で、江戸時代から約300年受け継がれている俳句を楽しむ団体です。美濃を本拠に活動し、歴代の道統宗匠は美濃在住者が多く、美濃派とも呼ばれています。



詠まれた句を記録する大山執筆（中）と大野宗匠（左）

## カメラの眼

まちの出来事



田代西子ども会の会員がもちつきを体験

## もちついたよ バードコール作ったよ

田代東町内会と田代西子ども会

12月21日、田代東町内会では、毎年恒例の行事で、今回は120人が参加し、防犯意識の向上ともちつき大会を秋葉神社境内で行いました。

岐阜羽鳥警察署職員が、多発している振り込め詐欺の事例を話し、役員たちが前日からもち米を準備し、小学生たちがもちつきを体験し、つきたてのもちを大人と一緒に食べました。

また、田代西子ども会では、松枝公民館で参加者100人が、もちつきとバードコール（野鳥観察具）を作りました。もちつきは、全員が体験し、出来上がったもちを食べました。河川環境楽園の職員が、鳥の鳴き声を紹介。バードコール作りでは、子どもたちが木片に色を塗り、ネジを差し込んで回すと、まるで鳥が鳴いているような音が出て小学生は驚き、講師の方にいろいろな質問をし、自然について学習をしました。

小学生たちは、地域の大人たちに見守られながら年末の伝統行事を楽しみました。

## 壮観 全国凧名人の凧揚がる

27団体参加

第4回木曾川凧あげまつり全国大会が1月18日、米野運動場一帯で1,000人が参加して開催されました。

木曾川凧あげ大会と木曾川エリアは岐阜県が選定した「じまんの原石」に登録されています。

全国から27団体130人の凧揚げ名人が集まり、20畳敷八日市大凧、連凧、トンボ凧、飛行機凧など個性豊かな自慢の凧が会場いっぱい揚げられました。

凧を持参してきた親子は、個性豊かな名人の凧を眺めたり、自分の凧を揚げ、凧揚げの醍醐味を満喫しました。



最優秀賞を受けた八日市大凧